

生活指導分科会

I 研究のあゆみ

4月24日(木)	2025年度名教組教研オリエンテーション (2025年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(金)	発表テーマ報告・集約	
5月上旬～7月中旬	研究計画の検討・個別指導	【指導者と個別に検討】
7月16日(水)	研究内容の検討(研究のまとめ方)	【高針小】
8月中	レポートの検討	【指導者と個別に検討】
9月4日(木)	発表内容の検討(リハーサル)	【高針小】
9月20日(土)	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに掲げ、次のような視点で研究に取り組んだ。

- 1 子どもの気持ちを大切にし、実態を正しく把握した上で、子どもたち一人ひとりをどう理解し、支援していくのか。
- 2 集団の質を高めるために、活動をどう充実させ、発展させていくのか。
- 3 家庭や地域との連携をどう進めていくのか。

その中で、以下のような実践が報告された。

- 同一事象でも人によっていろいろな感じ方があることに気付いたり、日常生活の場面をロールプレイすることで相手の立場になって自分の行動を考えたりすることができるようになる実践。
- 自分のよいところや好きなことを友達から認められることで自己肯定感を高めるとともに、自分の意見とは異なる友達の意見も受け止めることができるようになる実践。
- 自分の考えや好きなことをたくさん友達と伝え合うことで、自分の考えを自信をもって伝えられるようにするとともに、相手の考えも尊重できるようになる実践。
- 相手にとって気持ちのよい話の聞き方を知り、相手の考えを認めたり傾聴したりする経験を積み重ねることで、友達を大切にできるようになる実践。

これらの実践は、自発的に子どもが自己の成長をめざすという点で共通している。そして、それには教員の支援が必要不可欠であり、どのように教員が関わるのが効果的なのかを試行錯誤しながら実践を進めた。

III 今後に残された課題

全ての実践が有効であることが報告されたが、どの実践でも、めざす子どもの姿に近づいてはいるものの、課題も少なからず残された。特に授業で練習したことが実生活でよりできるようにしたり、実践の期間を終えてもめざす子どもの姿を維持させたりするために、実践の工夫や継続が必要との報告があった。また、実践によっては個人差があるため、個別での支援も必要であることが挙げられた。